今後の感染拡大に備えた具体的取組 【病床稼働状況の可視化、入院・搬送調整のシステム化】

資料３－２

○ 新型コロナ受入病床の稼働状況データを「大阪府療養者情報システム（O-CIS）」に取り込むことにより、各医療機関においてリアルタイムで病床稼働状況を把握できる仕組みを構築する。

○ 併せて、入院調整と患者搬送を同一システム上で運用することにより、入院フォローアップセンター業務の効率化を図る。【12月21日(火)から開始】

新たな３つのシステム化

大阪府療養者情報システム（Osaka-Covid19-Information-System）

見える化 → 仮登録 → 入力項目精査 → ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ申請 → 入院調整 → 搬送先決定 → 搬送調整 → 患者搬送 → 患者受入

NEW 見える化

受入医療機関が病床稼働状況（確保病床数/即応病床数/入院中患者数等）をG-MISに入力

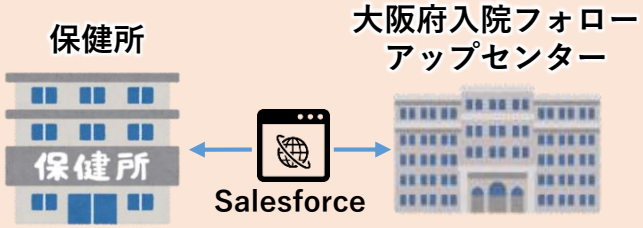
▼

ポイント 府において独自にG-MISデータをSFに取り込み、リアルタイムで病床稼働状況を把握が可能

▼

効果 ポータルサイトで府・保健所・受入医療機関との間で稼働状況を共有することにより効率的な運用を促進

NEW 入院調整



入院調整業務の更なるシステム化を推進（SFを活用）

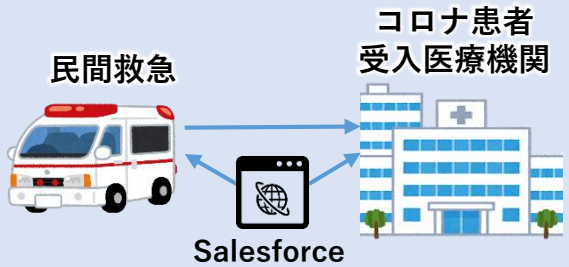
▼

ポイント 既往歴等の患者情報の入力漏れ入院要件などの内容を確認することで、スムーズな申請が可能

▼

効果 入院調整の迅速化と保健所及び入院FCの事務作業の軽減を実現

NEW 患者搬送



入院患者と搬送車両との情報伝達方法をシステム化（SFを活用）

▼

ポイント 搬送事業者への迅速な搬送依頼により、スムーズな患者受入れが可能

▼

効果 将来的には、受入病院が患者の到着時刻や問診情報の事前確認を実現予定